



★★★★★ TYCメールマガジン ★★★★★

第23号 平成27年3月1日

富士山が見える「内浦湾」から会員の皆さんにホットな情報をお伝えします。

※このメールマガジンが不要の方は、件名に「不要」とご記入頂き、このままご返信下さい。
メールアドレスを変更したときは、新しいアドレスを登録してください。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

■今年第一回URレース

1月25日に開催しました。

9時からクラブハウスで、艇長会議がありました。

今年も楽しいレースを期待しています。



■クラブハウス屋上に・・・計画しています。

内浦クラブ設立20周年記念事業として、クラブハウス屋上に恒久的なバーベキューコンロを煉瓦で2基作成し夕日を眺めながら又ヨットレースを眺めながらバーベキューパーティーを催します。会員はグループで又はご家族やお孫さんたちいつでも利用できるにします。

(内浦クラブ会長の資料より抜粋)



■散骨式

昨年末、故奈木三郎氏が永眠しました。TYCの有志で3月1日散骨式が行われました。心より、ご冥福をお祈り申し上げます。 合掌！



■寄稿 「地方創生のアイデア」

ジェームス マッケン

地方の創生ということが言われているが、これがもっぱらお国のほうから出てきた発想であって地域の自主性によってではないところに問題点があり、かつて市町村に一億円づつばら撒いた結果、金塊などを購入した自治体の有ったことを思い出さずに居られない。本来は、地域の自主性を尊重し、自発的に継続して活性化に取り組むのでなければ、一過性の現象で終わってしまう。

そんな観点から沼津にはなにがあるのか？富士の景色と沼津港、御用邸公園、沼津アルプス、愛鷹山、静浦湾、狩野川、ゴルフ場、近くには大瀬崎、淡島、三津浜シーパラダイス、伊豆長岡温泉、韮山の歴史的建造物、大間のイチゴ狩、鮎釣り、小田急JRの沼津ロマンスカー、干物、などでまだまだいろいろあるかもしれないが・・・

地方創生といった観点から見ると圧倒的に観光ということになる。駅の周りには、多くのビジネスホテルが展開している。大手ホテルチェーンもあれば、地元資本のものもある。沼津港は、海の幸の食堂が立ち並び、週末ともなれば駐車場探しに苦労するほどの賑わいである。

しかしながら、沼津港から出る遊覧船の客はそう多くはない。それは、皆が気楽に船に乗れる施設整備がされていないからでもある。遊覧船に乗れる雰囲気のパンツーン(浮き桟橋)を設けるべきであろう。その浮き桟橋は元の市場側に沿って作るか、港の真ん中に突き出させるかなどの方法もあろう。そして、それらは漁港から開放された沼津港が、あらゆる船の利用を可能にすることにもつなげてゆこう。パンツーンを一時係留のその他のレジャー船にも開放して、海と陸をつなげてやろう。

これからは、これまでおさえつけられてきたレジャー船がもっと主役の座に躍り出て、観光客の誘致にもつなげてゆくべきであろう。

海のレジャーボートのフェスティバルとして、沼津港、沼津漁協、沼津市などの主催する富士山ヨットレースを年2回くらい開催し、招待艇を含め、沼津港に集結し、沖合いでヨットレースを開催する。展望塔、岸壁は見学者でごった返す。外港では、パドックよろしく出場艇のレース前のパレードをおこなう。レース終了後は、旧市場で市長杯を手渡す表彰式とパーティーの開催、パーティー終了後は、市内のホテル民宿に宿泊するクルー、そのまま母港に帰る船、など様々なシーンが見られる。優勝艇から3位までは、来年出場料を免除される特典も用意されている。出場艇のクルーには、市内ホテル民宿の割引券が配られるなどの優

遇策も考えても良いかもしれない。あるいは、干物購入割引券などなど、アイデアはいくらでもあるであろう。

また、多比ヨットクラブで行っているような、ポンツーンを利用したジャズフェスティバルを開くのもよい。レジャーボートで聞きに来る、宿泊は市内のホテル民宿を利用する。港が近い船は夜間航行で戻っても良い。

その他、港内の整備を進めるために、地域創世の交付金をつかうのは勿論であるが、港内に入港するあらゆる船から入港料を徴収して、地域創世についても税金ばかり当てにせず、それらをポンツーンの維持管理費用に当てるなどの、ちょっとした負担をしてもらうことも同時に行うべきである。入港料は一々徴収するのではなく、近郊のハーバーに入港券の販売を任せ、そのチケットを持って入港し港湾管理者にそれを渡すと言うような方式も考えられる。券のないものは、その場で購入するか割引はないなどの方法を実施してはどうであろうか。入港券と宿泊券の連動を考えてもよい、すなわち市内民宿ホテルに宿泊する場合には、入港券免除などのサービスである。

また宿泊施設の充実を図るために、市独自の認定制度を設けたり、民宿改善ファンドなどの創設で、お客様が快適に過ごせる民宿を作る努力も行うべきではないか。民宿側もリピーター割引券などのサービスも充実させてゆく必要もあろう。

以上とりとめなく書いたが、皆さんからいろいろなアイデアを募集し、良い物をどんどん取り入れる制度作りも併せて行ってほしい物である。

■子供たちにライフジャケットを！！

シーズンオフですが、水辺に近づく子どもたちには、落水などの事故の危険があります。どうか、ライフジャケットのことを、お知り合いの方、お友達の方と話題にしてください。ライフジャケットが水辺に近づく子どもたちにとって、アタリマエの選択肢の1つになりますように・・・。

「春分の日までに5000いいね！キャンペーン」にご協力よろしくお願ひします！

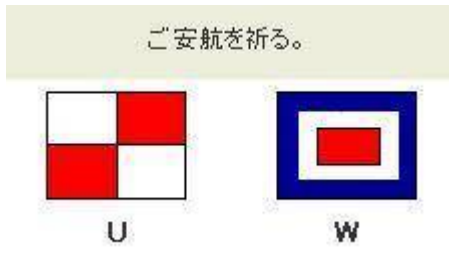
お友達、お知り合いの方に伝えて下さいね。思ひはただ1つ・・・子どもたちの命を守ること。

[もっと見る](#)



■UW!!!

今年も、全艇の安全な航海を祈っております。



——情報——

みなさんの家族・友人・知人でのクルージングの情報を、待っています。

発信者：TYC IT委員会 臼井洋一郎

多比トットクラブ

沼津市多比1-130

Tel:[055-939-1881](tel:055-939-1881)

HP: <http://www.tabi-yc.com>

e-mail: ja2ges@tabi-yc.com